

東京都新宿区北新宿1-8-16  
東京土建一般労働組合  
電話03 (5332) 3971 (代表)  
FAX03 (5332) 3972  
発行人・編集人  
三木 勉

印刷部数11万3600部  
(購読料は組合費のなかに含まれています)  
(年間購読料 千八百円) 定価 五十円



東京土建のホームページ http://www.tokyo-doken.or.jp/

**耐震講習会 開催します**  
東京都地域住宅生産者協議会が主催する、木造住宅の耐震補強実務講習です。【日時と場所】9月26日13時30分開会、全建総連会館。【受講料】3千円。所定の申込書で直接本部仕事対策部へ。

# 愛国心教育 すすめる 新「道徳」教科書

石山 久男 子どもと教科書全国ネット21



石山さん

## 押しつけられる徳目 子どもの考えを枠にはめて

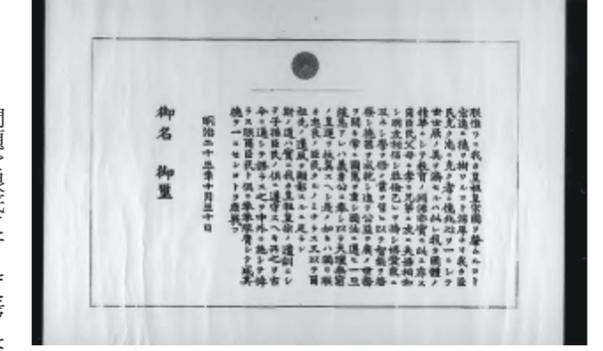
来年度から始まる小学校の道徳の授業で使われる教科書には安倍政権による教育支配の目論見が垣間見えます。その危険な実態について、子どもと教科書全国ネット21代表委員の石山久男さんに寄稿いただきました。

8月中に各市区町村で小学校「道徳」教科書の採択が決められ、その教科書を使った週1時間の「道徳」の授業が来年度(4月)から始まる。その採択からにはじめられます。「特別の教科」となった「道徳」の授業はこれまでと大きく違います。一つは、文科省が定めた基準で画一化された文科省検定済教科書を使って

授業をしなければならなくなります。二つ目は、子どもが評価されることです。他教科のように5段階の数字で評価されるわけではなく、各学年ごとに1年間で子どもの道徳性がどれだけ高まったかを教員が文章で評価するのです。小学校「道徳」の教科書は、今回8社から発行されました。それぞれの違いはありますが、学習指導要領にもとづき文科省の検定をへてきたものですから、共通する問題点がたくさんあります。学習指導要領では20前後の

## 政権に黙って従え 教育勅語と狙いは同じ

「努力と強い意志」という徳目では、松下、ホンダ、フジヤマなど大企業の創業者や、オリンピックで活躍した選手などの成功物語が多用されています。「礼儀」では型にはまったしぐさを教え込みます。「集団や社会との関わり」という大項目では、規則の尊重、権利の主張よりも



教育勅語 (出典: 国立公文書館HP)

## 問題の教科書はNO 大田でスタンディング集会

8月4日、大田区教育委員会。来年度に用いられる道徳の教科書の採択審議がされるため、同区役所本庁舎前で大田区子どもの教育連絡会(以下、連絡会)が主催するスタンディング集会が行なわれました。

連絡会が不採択にせよと訴えているのは教育出版の教科書です。連絡会世話人の伊藤望東子さんによれば、育鵬社の教科書に関連する人や道徳教育を先行実践している武蔵村山市の先生が執筆者に名を連ねたり、安倍首相が下町ボブスレーに乗っている写真を掲載したりするなど、問題点のある教科書だといいます。50人余りがスタンディングで教育出版の教科書採択は許さない意思表示を行ないました。参加者には東京都教職員組合など教育関係者以外に不安をもつ親子の姿もありました。中には横浜市や隣の目黒区から来た人もいました。

教育委員会の傍聴には定員90人のところ、スタンディング集会に集まった人も含めて144人が希望して抽選となり、抽選から漏れた人は採択の結果を報告する報告集会へ参加しました。報告集会の冒頭で教育出版を推す委員はおらず不採択、選ばれたのは東京書籍であったことが紹介され、大きな拍手に包まれました。

あいさつに立った連絡会代表で弁護士長の長尾詩子さんが「委員がそれぞれの言葉で意見を述べた。真摯に道徳教科書に向き合っている。子どもたちの考えの幅を狭めない、教員の指導の幅を狭めない、クラスが一色に染まるのはよくない」といった意見もあった。私たちの訴えが届いたのではないかと思う」と報告しました。

「努力と強い意志」という徳目では、松下、ホンダ、フジヤマなど大企業の創業者や、オリンピックで活躍した選手などの成功物語が多用されています。「礼儀」では型にはまったしぐさを教え込みます。「集団や社会との関わり」という大項目では、規則の尊重、権利の主張よりも

稲城市は市史編纂のため施設の調査を行なったが、保存に関しては米軍施設内なので何もできないと言っている。このままでは失われてしまう。全国の戦争遺跡も文化財や史跡指定されたもの以外は地元の保存運動によって残されている。戦争体験を語る世代が少なくなり、25年前の大橋遺跡のような聞き取りもできなくなる。戦争遺跡の保存を進め、新たな語り部として活用すべきだろう。

目黒区大橋町にある大橋遺跡は1992年の発掘調査で陸軍輜重(しちよ軍輜重)の遺跡が確認された。そこには敗戦に際して証拠隠滅を図って焼却した軍事関連の文書が燃え切らずに残っていた。また食器の類も多数出土し、湯のみなどに記された使用者の名前から本人をたどり、兵学校での生活の様子などを聞き取ることができたという。

戦争遺跡の調査・研究も大切だが、現存する建物などを保存することも重要だ。稲城市にある米軍の多摩サード補助施設には、かつて陸軍が建設した火薬製造所があり、工場の木造建物や半地下式の倉庫などの施設が残されている。しかし米軍の管理下だから自由な見学は許されていない。稲城市が主催する見学会はあるが参加は市民に限られる。